

目次

孫文先生「大アジア主義講演」一〇〇周年を記念して……………愛新 翼
今なぜ「孫文・講演『大アジア主義』」なのか——孫文のグローバル・リージョナル戦略——…西村成雄

I 講演「大亜細亜問題」の由来と背景（論文）

- [01] 「東京、大阪基督教青年会館での孫文演説文の発見」（蔣海波）〔『孫文研究』一六号、一九九四年三月〕……………5
[02] 「基督教徒歓迎會に於ける孫逸仙氏の演説」〔『基督教世界』一九一三年二月二七日〕……………7
[03] 「東京 孫逸仙氏一行歓迎會」（『基督教世界』一九一三年二月二七日）……………9
[04] 「大阪 大阪基督教徒の孫逸仙氏歓迎演説會」〔『基督教世界』一九一三年三月一三日〕……………10
[05] 「神戸 基督教徒主催の孫逸仙氏歓迎會」〔『基督教世界』一九一三年三月二〇日〕……………12
[06] 「孫文氏並に同令夫人のお話」（兵庫県立神戸高等女学校同窓会報）一九号、一九二四年二月二五日〕……………13
[07] 「孫文のキリスト教理解と大亜細亜主義——東京、大阪キリスト教青年会館での演説をめぐって——」（蔣海波）〔『孫文研究』一三三号、一九九八年一月〕……………14
[08] 「東洋Ⅱ王道」「西洋Ⅱ霸道」の起源——王正廷・殷汝耕・孫文」（関智英）〔『孫文研究』五九号、二〇一六年二月〕……………25
[09] 「孫文の「中独ソ三国連合」構想と日本 一九一七—一九二四年——「連ソ」路線および「大アジア主義」再考」（田嶋信雄）〔服部龍二・土田哲夫・後藤春美編『戦間期の東アジア国際政治』中央大学出版部、二〇〇七年六月〕……………32
[10] 「アジア主義とその周辺」（古屋哲夫）〔古屋哲夫編『近代日本のアジア認識』緑蔭書房、一九九六年七月〕……………39

- [11] 「初期アジア主義についての史的考察(1) 序章 アジア主義とは何か」(狭間直樹) 『東亜』四二〇号、二〇〇一年八月]……………51
- [12] 「東西文明論と日中の論壇」(石川禎浩) 『古屋哲夫編』『近代日本のアジア認識』緑蔭書房、一九九六年七月]……………56
- [13] 「孫文と朝鮮問題」(森悦子) 『孫文研究』一三三号、一九九一年二月]……………65
- [14] 「今井嘉幸と李大釗」(武藤秀太郎) 『孫文研究』五五号、二〇一四年二月]……………73
- [15] 「大アジア主義と中国」(趙軍) 『亜紀書房』一九九七年三月]……………81
- [16] 「アジア主義と近代日中の思想的交錯」(嵯峨隆) 『慶應義塾大学出版会』二〇一六年六月]……………89
- II 孫文の神戸での動静(一九二四年一月二四日～三〇日)
- [17] 「孫文」大アジア主義』講演と神戸」(安井三吉) 『孫文研究』五八号、二〇一六年六月]……………97
- III 天津『益世報』、上海『申報』に見る孫文離日後の報道
- [18] 「孫中山到津歡迎紀」(『益世報』一九二四年二月五日)……………131
- [19] 「社論 爲孫中山進一言」(謙) (『益世報』一九二四年二月五日)……………132
- [20] 「東報論中國之外交前途」(『益世報』一九二四年二月五日)……………133
- [21] 「東報之孫中山入京觀」(『益世報』一九二四年二月八日)……………134
- [22] 「國外要聞二 孫中山此次來日之印象」(之圭) (『申報』一九二四年二月二日)……………135
- [23] 「要聞 段張孫感情融洽之外論」(『益世報』一九二四年二月二三日)……………136
- [24] 「時評二 對汪孫聲明述感」(澄廠) (『益世報』一九二四年二月一五日)……………137
- [25] 「李烈鈞招待日記者談話」(『申報』一九二四年二月一九日)……………138

[26] 「本埠新聞 孫派要人對時局表示」〔『益世報』一九二四年二月一日〕……………139

[27] 「時評一 中山之死之瑣感(二)」(典)〔『益世報』一九二五年三月一日〕……………141

[28] 「孫中山之身後問題」(新)〔『申報』一九二五年三月一日〕……………142

[29] 「國外要聞 東京通信」(之圭) (三月三日)〔『申報』一九二五年三月一日〕……………143

IV 資料

(1) 「大アジア主義」講演の由来とその歴史的背景

[30] 「大亞細亞主義論」(小寺謙吉)〔東京寶文館、一九一六年二月〕……………152

[31] 「大亞細亞主義と新亞細亞主義」(李大釗)〔『國民』一九一九年二月一日〕……………156

[32] 「王道と霸道」(王正廷)〔『東京朝日新聞』一九二三年二月二十五日—二十八日〕……………158

[33] 「孫の書簡(古島一雄宛)一九二七年」(犬養毅)〔鶴尾義直編『犬養木堂書簡集(復刻版)』一九九二年五月〕……………162

[34] 「高木特派員報」〔『中外商業新報』一九二四年一月二十五日〕……………162

[35] 「日華提携の眞諦を説く」(李烈鈞)〔『支那時報』一九二五年一月一日〕……………166

[36] 「蔣介石日記で言及された「大アジア主義」(一九三二年二月一日、一九三九年六月二〇日、一九五〇年五月二一日)……………168

[37] 「日本外交文書に見る一九二四年一〇月、一月、二月の孫文」〔『日本外交文書大正一三年第二冊 外務省、一九八一年三月〕……………169

[38] 「大亞細亞主義とは何ぞや」(若宮卯之助)〔『中央公論』第三二年四号、一九一七年四月〕……………177

[39] 「大亞細亞主義の確立」(大石正巳)〔『日本及日本人』秋季増刊、五八号、一九二四年一〇月五日〕……………179

[40] 「大亞細亞主義とは何ぞや」(殷汝耕)〔『日本及日本人』秋季増刊、五八号、一九二四年一〇月五日〕……………181

(2) 学説史の視点

- [41] 「日中関係史における孫文の「大アジア主義」―戦前編」(高綱博文)〔「近きに在りて」三二号、一九九八年一月〕……………186
- [42] 「日中関係史における孫文の「大アジア主義」―戦後編(上)」(高綱博文)〔「近きに在りて」三四号、一九九八年一月〕……………196

(3) 「黄禍論」「大アジア主義」と中国、日本

- [43] 「思想課題としてのアジア 基軸・連鎖・投企」(山室信一)〔岩波書店、二〇〇一年二月〕……………199
- [44] 「近代中国におけるアジア主義の諸相」(吉澤誠一郎)〔松浦正孝編『アジア主義は何を語るのか―記憶・権力・価値』ミネルヴァ書房、二〇一三年二月〕……………202
- [45] 「停滞の帝国―近代西洋における中国像の変遷」(大野英二郎)〔国書刊行会、二〇一一年一〇月〕……………211
- [46] 「黄禍論とは何か―その不安の正体」(ハインツ・ゴルヴィツァー、瀬野文教訳)〔中央公論新社、二〇一〇年五月〕……………216
- [47] 『人種戦争という寓話―黄禍論とアジア主義』(廣部泉)〔名古屋大学出版会、二〇一七年一月〕……………220
- [48] 「黄禍論と日本人 欧米は何を嘲笑し、恐れたのか」(飯倉章)〔中央公論新社、二〇一三年三月〕……………225
- [49] 「解説孫中山大亜洲主義演講の真意」(桑兵)〔『社会科学战线』二〇一五年第一期〕……………227
- [50] 「近代日中関係の旋回―「民族国家」の軛を超えて」(王柯)〔藤原書店、二〇一五年〕……………231
- [51] 「華夷秩序とアジア主義」(茂木敏夫)〔長谷川雄一編『アジア主義思想と現代』慶應義塾大学出版会、二〇一四年七月〕……………235

(4) 戦時中の孫文論

- [52] 『孫文』(高橋勇治)〔日本評論社、一九四三年八月〕……………239

〔53〕「高橋勇治」「孫文」(丸山眞男)〔戦中と戦後の間 一九三六—一九五七〕みすず書房、一九七六年二月〕…	244
付録・孫文「大アジア主義」のテキスト	
〔54〕「大アジア主義」神戸高等女学校での演説〔深町英夫訳〕〔深町英夫編『孫文革命文集』岩波書店、二〇一二年九月〕…	248

あとがき